
アルス国際製靴学校研修体験記

(平成22年9月19日～12月18日)

株式会社エースコーポレーション 峯 岸 保 晴
株式会社パイオニア 谷 藤 京 子

イタリア、ミラノにあるARS国際靴学校で、3ヶ月間（平成22年9月～12月）靴に関するさまざまな実技と知識の研修を受けました。3ヶ月という短い期間ではありませんでしたが、靴のパターンメイキング、デザイン画、皮革や木型についての講義の他、課外授業では見本市視察や工場見学など、自分たちの想像以上にタイトなスケジュールで行われました。

【研修内容】

パターンメイキングでは、ルナティシステムという数値化された公式による作成方法を学びました。

この方法は、木型上にデザインを描かず型紙上でラインを引くシステムで、完成するまで、デザインのイメージが判りづらいというデメリットはあるものの、その公式を覚えることにより、初心者でも型紙をつくることができます。

授業のなかで婦人靴だけではなく、紳士靴や子供靴、デザインではサンダルからスニーカーまで幅広く学ぶことができたことは貴重な経験になりました。

公式通りではクラシックスタイルにしか適応できないのですが、授業では応用する方法も教えてもらえるので、かなりの種類の型紙を制作できるようになります。

このシステムの開発者であるルナティ先生は、平成22年8月に他界され、お会いする

ことは叶いませんでしたが、その意思を継いだ先生方が熱心に教えてくださいました。

また、デザイン画も同様に、絵を描く上の基本の骨組みは、ある程度数値化されており、比較的容易にデザイン画を描けるようになります。デザインのバランス感覚を養うためには、良い方法だと感じました。

このような実技では、徹底した反復演習が行われ、効果的にそれらの技術を学ぶことができました。



写真① 授業風景

課外授業では、STEFANIA（タンナー）、ROVEDA（シャネル等のメーカー）、LINEAPELLE（革の展示会）、高級メンズシューメーカーなどの工場を見学しました。

STEFANIA、ROVEDAは、いずれも最新の設備が投入されており、日本のメーカーとの差に圧倒されましたし、メンズメーカー（ロロピアーナ等の靴を製造）では、日本ではなかなか見ることのできない、オン

ザラストのモカシンの手縫いやハンドソー
ンウェルテッドなど、イタリアのクラフト
マンシップを垣間見ることができました。

課外授業で行った見本市LINEAPELLE
は、とても回りきれないほどの大規模で、
展示している革や副資材のクオリティーの
高さに、メイドインイタリアーが世界のブラ
ントでいることのできる理由の一端を知る
ことができました。



写真② LINEAPELLE 会場

11月末からは、プロトタイプメイキング
のコースが始まり、ミラノ近郊のビジェバ
ノという靴産業の中心地まで、毎日足を運
びました。

各自でサンプルの靴を片足作成するとい
うプロジェクトで、先生と相談しながらデ
ザインから裁断まで進め、仕様書を整備し
て製甲、底付けは職人に依頼するという形
式をとりました。

今回の研修で製靴技術の習得同様、貴重
な経験になったのは、世界中の靴に携わる
人々との意見交換や文化交流ができたこと
でした。

私達自身、あまり英語が話せないので、
100%のコミュニケーションは取れないの
ですが、それでも他愛の無い世間話からビ
ジネスの話まで異なる視点からの意見は非
常に刺激的で私達自身も様々な点において
成長できたと考えています。



写真③ ポートモカシンデザインコンペ入賞

またそのような中、企業の主催する2つ
のデザインコンペにおいて、BASF社主
催アウトソールデザインコンペで、峯岸、
谷藤両研修生ともに入賞。

GEA GOMMA社主催ポートモカシンデ
ザインコンペでは峯岸研修生が2位に選ば
れるなど、両名ともに優秀な成績を修める
ことができたことは、今後に対する大きな
自信となりました。

【ミラノでの生活】

クラスメートたちは、イタリア、アメリ
カ、インド、韓国、マレーシア、カナダ、
メキシコ、ペルー、ドイツ、南アフリカ、
トルコなど、各国から来ており計21名でし
た。(パターンメイキングコース)

それぞれ色々な目的で、授業を受けに
来ていますが、シューズメーカーや、デザ
イン会社に勤めている生徒、親がシュー
メーカーや、レザーメーカーを経営してい
る生徒、が大半でした。年齢は、20代前
半から30代後半くらいです。

イタリアのなど、ミラノ近郊に住んで
いる生徒は自宅から通学しておりましたが、
大半の生徒は、ARS国際製靴学校と同じ
建物内にある「レジデンス」で生活してい
ました。

レジデンスのある場所は、ドゥオモやミ
ラノの中心地にも、トラムと呼ばれる路面

電車で20分ほどの地域でしたので、何事にも不便のなく生活することができました。

クラスメートや先生とは、英語でのコミュニケーションで、私にとっては厳しい環境でしたが、一緒にレジデンスで食事をしたり、時にはクラブへ行ったり、旅行へ行ったりと、みんなでさまざまな経験をしました。



写真④ 谷藤研修生と先生

ミラノの街は、ヨーロッパ独特の歴史ある建物や、日本ではあまり見かけない教会、石畳の道、年代もののトラムなどがあり、日本の雰囲気とは全く違うものでした。

ミラノの街で、シューズショップはもちろん洋服、雑貨等、色々なショップを見て回りましたが、興味深いのは、デパートのようなものは少なく、ほとんどが路面店で、しかも専門店の場合が多かったことです。

もちろん洋服のセレクトショップのような形式のお店もありますが、下着や、キッチンウェアの専門店など、小さいお店もたくさんありました。



写真⑤ クラスメートたちと

また、これもヨーロッパ独特の文化だと考えられますが、ショーウィンドウを特に重要視しているようで、洋服や、靴、宝石はもちろんのこと、チョコレートショップ、日用品ショップまで、道路側から良く見える様に綺麗にディスプレイされています。すべての商品が外側に向けていて、どれを試着したいのか決めてからでないと入れないシューズショップもあるくらいでした。

日本では、便利なテナント型ショップ、デパート、ショッピングセンターなどが、現在ほとんどだと思いますが、便利な反面寂しくも感じました。

【研修を終えて】

この3ヶ月間を終えて、無二の経験をさせてもらった今、私自身がそれをどう応用して活用していくかということが最重要課題です。

この研修で得た経験をさらに磨き続け、これからの仕事に大いに活かしていきたいと考えています。

さらに、これからもこの派遣事業を継続していただき、この貴重な経験を多くの人達に体験していただきたいと強く願います。

最後に、この研修でご尽力して下さいました関係者の皆様、業界関係者の皆様、ありがとうございました。

心から御礼申し上げます。

【授業詳細】

1. 授業スケジュール

9月20日～11月27日（10週間）

パターンメイキングコース

11月29日～12月17日（3週間）

プロトタイプメイキングコース

週間スケジュール

- ① 月曜日～木曜日
9：00～13：00 14：00～17：00
- ② 金曜日
9：00～13：00 14：00～16：00
- ③ 土曜日、日曜日 休講

2. 研修内容

- ① 授業内容は長期に渡る体系的な研修と反復練習が基礎になっている。
最初は実技のみだが、1ヶ月過ぎるところから1時間半ほど靴に関する理論、皮革等の講義があり、その後実技。
- ② 先生が生徒全員を集め、制作上の注意点等を説明しながら、型紙を作成していく。
生徒はそれに倣い各自で型紙を作成し、完成したものの出来具合を見てもらい、必要に応じて提出する。
- ③ パターンメイキングコースの最終週には、卒業試験が行われる。

3. 講義内容

- ①理論
 - ・ 靴型プロポーション（各部名称及び数値測定方程式）
 - ・ インターナショナルサイズ（フランス、イギリス、アメリカのサイズについてとその換算）
 - ・ 裁断、型入れ方法、アッパーエッジの処理方法
 - ・ 皮革について（種類及び用途）
 - ・ 靴の製法について

②実技

- ・ 基本原型の取り方
- ・ 基本モデルとその応用デザインの型紙作成（外羽根、内羽根、ショートブーツ、ロングブーツ、パンプス、サンダル、モカシン、袋モカ、サボ、子供靴）
- ・ 各種デザイン画の作成

③提出課題

- ・ 週1回型紙と紙アッパーを作成提出（毎週月曜に小テストが行われる。2～3点提出）
- ・ 月3回ほど型紙、紙アッパー、ライニング、裁断型を封筒に仕様を書いて提出、最後の週にこれまで作成したもののチェックが行われる。

4. 卒業試験

- ① 筆記
講義内容についての試験、計算問題など
- ② 実技
靴のデザイン画を見て紙アッパー作成をして提出
- ③ 提出物 デザイン画10枚以上
- ④ 面接
先生2名から、作成した紙アッパーやレポート、講義内容について口頭で質疑応答。

5. コンペティション

- ① ドイツ BASF社（総合化学メーカー、ウレタン素材に強み）主催のアウトソールデザインのコンペティション
- ② イタリア GEA GOMMA社（天然クレープ専門の素材メーカー）クレープソール使用のボートモカシンデザインのコンペティション